

伊勢神宮崇敬会長賞

高岡市立伏木小学校 三年 舟本 篤史

『ししまいの意味』

ぼくのすむ高岡市伏木国分には、国分天まん宮という神社があります。毎年九月に国分のししまいがあります。

ぼくが、三さいのころ、お父さんとはじめてししまいを見に行きました。ぼくは、おしがこわくて泣いていたのをおぼえています。

小学校へ入学し一年生二年生の時にししまいに参加しました。たくさんの大人たちやお兄さんたちがぼくたちにししまいのおどり方を教えてくれたり、お世話をしてくれました。

昨年は中止にしたけれど、おととしのししまいはたくさんの人たちの前でおどれて楽しかったです。朝早かったけど、きれいないししょうを着るのもうれしかったです。

その日の朝一番に国分天まん宮でみんなでおどった後、町内の家をまわり、さい後にししごろしをして終わります。

ししまいが終わった時、なぜさいしよに神社でおどるのか、なぜ秋にししまいをするのかお父さんに聴きました。秋は、春に種を植えた農作物がたくさんとれたことをいわって神様にかんしゃの気持ちをごめてししまいをおどるそうです。その他にあくまばらいやえきびようたいじ、安全をねがう意味があると教えてもらいました。

ししまいにはたくさんの意味があって神様にいのると聞いて、ぼくはただ楽しければいいという気持ちだけではなく、神様においのりやかんしゃの気持ちをこめておどるということが大切だと分かりました。今年こそは、昨年中止になった分も気持ちをこめておどりたいです。

そしてぼくが大人になったらたくさんの人たちに教えてもらったりお世話をしてくれたこと、ししまいの意味を次にししまいを習う子どもたちに教えて、どんどん未来までうけつがれていくようにしたいです。

このまま国分のししまいを大切にしたいです。